

セッション5 清浄化

17. M-TGE 液体培地と R2A 液体培地による生菌数測定値の比較検討

○瀧澤亜由美 (タキワヅアユミ)¹⁾、石森 勇¹⁾、鈴木万恭子¹⁾、宮尾亜矢子¹⁾、村上 淳¹⁾、金子 岩和¹⁾、花房 規男³⁾、峰島三千男²⁾、土谷 健³⁾

東京女子医科大学 臨床工学部¹⁾、同臨床工学科²⁾、同血液浄化療法科³⁾

【目的】 当院では日本ポール社製 37mm クォリティモニタを使用し透析関連液の生菌数測定を実施している。培地は M-TGE 液体培地と R2 液体培地から選択できるため両培地の生菌数測定値について比較検討した。

【方法】 採液箇所は水処理装置のプレフィルタ前、カーボンフィルタ後、LRO 膜後、RO 膜後、ループ配管の RO 戻りライン、A・B 原液、末端装置 (ETRF 前後)、on-line 補充液とした。37mm クォリティモニタを使用し、M-TGE 液体培地と R2A 液体培地にて 22℃ で 7 日間培養しコロニー数をカウントした。結果を χ 二乗検定にて解析した。

【結果】 コロニーが検出された検体では B 原液のみ M-TGE の方が有意に検出率が高い結果となった。

【考察】 当院の B 原液の生菌数測定には M-TGE 液体培地の方が適している可能性が示唆された。

【結語】 各施設の環境により適切な培地は異なることが予想されるためガイドラインを遵守しつつより検出されやすい方法を検討することは必要であると考えられる。